

自然ガイド・登山ガイドにおける ガイド対顧客標準人数比率に係る規定

平成27年4月1日制定・施行
公益社団法人日本山岳ガイド協会

1. ガイド対顧客の標準人数比率（ガイドレシオ）の三原則

1) 安全管理

本会認定の自然ガイド、登山ガイドは、個人顧客、集団登山、ツアー登山、講習会等の業務（講師、指導者を含む）中、常に現場状況と顧客・参加者の行動と体調を把握し、安全を諮らなければならない。

また、危険に係る注意喚起等の適切な指導、危急時の迅速な対応等、安全管理責任者として注意・配慮を怠ってはならない。そして安全管理こそ、ガイドが顧客・参加者に提供できる、最も重要なサービスであることを認識しなければならない。事故を予防するためにガイド1名が扱える顧客・参加者の人数の標準を明確にすることは、極めて重要である。

2) 自然環境保全

われわれ人間も生態系の一部であることを認識し、自然に対する畏敬の念を忘れてはならない。過大な参加者数を許容することは、安全管理のみならず自然や生態系に及ぼす衝撃も強烈である。ガイドは、自然への衝撃を最小限に留め（ローインパクト）、良好な自然の状態を保つよう努力し、適正なガイド対顧客比率を守り、且つ、顧客・参加者に率先して自然環境保全に留意し、指導しなければならない。

3) 第三者への配慮

ガイドは業務中、自然愛好者、一般登山者等の他者への迷惑にならぬよう、常に心がけなければならない。適正なガイド対顧客人数比率を守るとは、この観点からも重要である。また、場所の独占を慎み、譲り合いの精神で礼節を守り、行動中の混雑の回避等の配慮に努めなければならない。

.....

ガイドはこれらの三原則を遵守し、日々の行動時間、標高差、コース難易度、気象状況や地形・積雪の危険度、ロープ等による安全確保手段の有無とともに、顧客・参加者の体力、経験、技術、現場での体調等々を勘案し、安全確保に努めなければならない。その中で、本会ガイドが職能別に備えている経験、技術、体力、知識を基準に、注意深く業務を行えるガイド対顧客の標準人数比率は、別表のとおりである。

高山や険峻な山岳地形、あるいは避難小屋や幕営（キャンプ）でのガイド業務では、整備された登山道で、且つ、標準人数比率を超えない場合であっても、安全管理上、複数のガイド若しくは、同等の経験を有するアシスタント（助手）を配置することが望ましい。標準人数比率を超える場合には、当然ながら、複数のガイド（主任とその他）を配置するか、ガイドが信頼する同等の能力を有する人材（助手）を配置する必要がある。（この措置は、登山ガイドステージI資格者が十分な数だけ認定される期間を目安としての暫定的な対応とし、その後廃止する。）

また、人数比率とともに団体行動の場合、自然観察路等では、同一コース上に2グループ以内、登山道では、同一コース上に2～3グループ以内の活動とすることが望ましい。

別表のガイド対顧客標準比率、および参考ガイディング・ルート表が、各種団体や旅行業者が主催するツアー登山（旅程管理者同行の有無に係らず）の基準となるよう、雇用されるガイドは、積極的に説明し、理解を得られるよう努めることが必要である。

また、ガイドは、安全や自然保護への配慮に欠ける企画に関与することを避けるべきである。

2. 対外的な周知の義務、懲戒について

職能範囲、ガイド対顧客の標準人数比率、参考ガイディング・ルート等は、本会が職能別に定める、経験、技能を満たす認定ガイドとして、標準的な時間内での業務遂行が可能な範囲を定めたものである。

これに伴って、ガイドは、自らの職能範囲等を、顧客、契約者等の外部に対し、その契約形態に係らず、判り易く明示しなければならない。（ガイド本人の募集も含む）

また、ガイドは、標準人数比率の大幅な超過や職能範囲を逸脱しての事故が発生した場合には、そのことを以って業務上の過失責任を問われる可能性が高いことと、本会の定める懲戒規則第2条の項目（3、顧客に対する契約不履行、4、資格違反行為、等）に抵触する恐れがあることを意識すべきである。

ガイドは、これらを念頭に置いて対外的な契約をし、慎重に業務を行う必要がある。

（参考文書）旅行業ツアー登山協議会制定

ツアー登山運行ガイドライン（5ページ）記載の引率者に関する記述

- (1) 責任感、使命感、倫理観を充分にもち、引率者の役割を理解していること。
- (2) 旅行業に関わる法令等を理解していること。
- (3) 装備、食糧等準備段階において適切な安全配慮ができること。
- (4) 実地において危険の存在を説明し、注意喚起できること。
- (5) グループの編成能力があること。
- (6) 歩行速度と休息について適切な判断ができること。
- (7) 被引率者の歩行能力、技術、健康状態等を的確に把握し、過度に疲労させないこと。
- (8) クサリ場、梯子、崩壊地等、危険が予見される場所においてその通過に際し、指導、助言ができること。
- (9) 悪天候や不明瞭な登山道等において危険回避の指導、助言ができること。
- (10) 地形図の読図能力があること。
- (11) 気象に関する知識があること。
- (12) 緊急不時露営の判断ができ、設営技術があること。
- (13) 救急救助法の基本的知識と技術があること。
- (14) 救助要請の方法、救助隊との連携について理解していること。
- (15) 安全配慮義務を理解し、「努力義務」を徹底履行できること。

1. 職能およびガイド対顧客標準人数比率表

1. 無積雪期

- 自然観察路等 (職能：自然ガイドステージⅠ・Ⅱ)
里地・里山における整備された道、および湖沼、湿原等における整備された自然観察路等。
1日の歩行時間の目安は、2～3時間程度 **1：15**
- ハイキング道等 (職能：自然ガイドステージⅠ・Ⅱ、登山ガイドステージⅠ・Ⅱ・Ⅲ)
山地・高原等における整備された登山道や遊歩道等。
1日の歩行時間の目安は、3～4時間程度 **1：15**
- 登山道（初心者～初級者向きのコース） (職能：登山ガイドステージⅠ・Ⅱ・Ⅲ)
ガイドブック等で初心者～初級者向きまたは一般向きと示され、1日の行動時間は4～5時間程度で、明瞭で整備され安心して歩くことができる登山道。 **1：12**
- 登山道（中級者向きのコース） (職能：登山ガイドステージⅠ・Ⅱ・Ⅲ)
比較的明瞭で一部危険箇所があるが、鎖や梯子が取り付けられている登山道で、数泊に渡る縦走形式を含む。但し、テントまたは避難小屋泊の縦走登山および難路・険路を除く。
1日の行動時間は6～8時間程度。 **1：10**
- 登山道難路（上級者向きのコース） (職能：登山ガイドステージⅢ)
急峻な山岳地形のコースで岩場、岩尾根、鎖場、梯子等の危険箇所が連続しているが、登山道として整備されたコース、あるいは登山道として利用される雪渓、残雪崩落箇所、沢の横断、渡渉等、足場がきわめて不安定で場合によって一部ロープによる安全確保が必要とされるコース。テントまたは避難小屋泊の縦走登山。1日の行動時間は8～10時間程度。 **1：5**

2. 積雪期・残雪期・新雪期

- 里地・里山の自然観察路等（初心者、自然観察愛好者） (職能：自然ガイドステージⅡ)
雪崩の危険箇所がなく安心して歩くことができる里地、里山。 **1：15**
- 山地・高原ハイキング道等（初心者、自然観察愛好者） (職能：登山ガイドステージⅡ・Ⅲ)
雪崩の危険箇所の少ない山地、高原。 **1：15**
- 雪山登山道（初級者コース＝無積雪期中級者） (職能：登山ガイドステージⅡ・Ⅲ)
無積雪期の登山道に沿い、森林限界を越えない範囲の山地。例え森林限界以下であっても、地形上、雪庇、雪稜、氷雪等の発達認められる場合や、アイゼン、ピッケル等の森林限界を越える登山同様の基本技術が求められる山地は、業務範囲外。 **1：10**
- 雪山登山道（中級者～上級者コース＝無積雪期上級者） (職能：登山ガイドステージⅢ)
無積雪期の登山道に沿った森林限界を越えた積雪期ルート。易しい積雪期の専用ルートも含む。営業する山小屋より日帰り可能なエリアとする。ただし登攀等、氷雪技術を求められる地形のルート、雪崩の危険が極めて高い谷などを經由するエリア、雪稜のクライミングルートは業務範囲外となる。 **1：5**

ここに記載されない山岳ガイド、登攀ガイドの業務範囲については、平成19年度制定の規定に準ずる。

2. ガイドの標準日当

この目安は、無積雪期における一般登山道及び登山道難路の場合で、ガイドが扱う顧客人数は、参考表に表示される人数上限を限度とする。

| | | |
|----|-------------|---------|
| 半日 | 2～4時間くらいの実働 | 15,000円 |
| 1日 | 5～8時間くらいの実働 | 30,000円 |

○実働とは、登山開始場所での行程開始から、登山終了場所に到着するまでを言う。

○この日当は標準日当であり、顧客の選択するコース、ルートおよび自然状況により、別途、それぞれのガイドが定めるところによる。

○積雪期においては、前項同様、別途それぞれのガイドが定めるところによる。

○行動時間の延長や悪天候に伴って発生する、延長料や拘束料ないしは超過ガイド日当は、別途それぞれのガイドが定めるところによる。

○個人を対象とした特殊なルート・ガイドや、多人数を対象とした実地講習会及び机上講習会等、団体講習については、別途、それぞれのガイドが定めるところによる。

以上

3. 自然ガイド・登山ガイド・山岳ガイド職能別・標準ガイドング・コース表 (参考例)

1. 無積雪期

| 形態・対象 | 職 能 | 概略、山名、コース等 | 人数比率 |
|---------------------------|--|--|--------|
| 自然観察 ハイキング | 自然ガイド ステージ I・II 登山ガイド ステージ I・II・III | 里地・里山における整備された道、および湖沼、湿原等の整備された自然観察路、遊歩道等。 1日の歩行時間の目安は、2～3時間程度。 里地・里山以外では、知床五湖、白神十二湖、上高地周辺地形、立山室堂周辺地形、樽池自然園、日光戦場ヶ原、御在所岳頂稜部等々。 上記同等の各地自然探訪コース | 1 : 15 |
| ハイキング 登山 初心者 初級者 | 自然ガイド ステージ I・II 登山ガイド ステージ I・II・III | 山地・高原等における整備された自然観察路、登山道等、1日の歩行時間の目安は、2～4時間程度。 日本百名山では、伊吹山、筑波山、美ヶ原、霧ヶ峰、八幡平、蔵王山、那須茶臼岳、赤城山、大菩薩嶺、草津白根山、天城山、四国剣山、乗鞍岳、大台ヶ原山、阿蘇山等々、交通路終点からの最短一般向コース。高尾山、箱根山、六甲山等のハイキングコース。熊野古道、信越トレイル、高島トレイル、八ヶ岳周遊トレイル、東海自然歩道等々の一部。 上記同等の各地高原・山地・山岳コース | 1 : 15 |

| | | | |
|----------------------------|------------------------------------|---|-------------|
| <p>登 山 初級者 中級者</p> | <p>登山ガイド ステージ I・II・III</p> | <p>登山ガイドブック、登山地図、現地での案内等々において、初級者～中級者向き、または一般向と表示され、整備された登山道。 1日の歩行時間は3～5時間程度。 日本百名山では阿寒岳、大雪旭岳、岩木山、八甲田山、早池峰山、月山、西吾妻山、安達太良山、磐梯山、至仏山、皇海山、谷川岳、雲取山、四阿山、浅間山、立山、木曾駒ヶ岳、御岳山、蓼科山、荒島岳、大山、九重山、霧島山、開聞岳等々、交通路終点からの最短一般向コース。 上記同等の各地山地・山岳コース</p> | <p>1:12</p> |
| <p>登 山 中級者</p> | <p>登山ガイド ステージ I・II・III</p> | <p>比較的明瞭で危険箇所が一部あるが、鎖や梯子等が整備され、一般登山者の往来が多い登山道。 登山難路を除く。 1日の行動時間は6～10時間程度。 日本百名山では、羅臼岳、利尻山（利尻ルール 1:4～6優先）、斜里岳、幌尻岳、十勝岳、トムラウシ山、羊蹄山、岩手山、鳥海山、飯豊山、大朝日岳、那須三本槍ヶ岳、会津駒ヶ岳、越後駒ヶ岳、平ヶ岳、巻機山、燧ヶ岳、雨飾山、苗場山、妙高山、火打山、高妻山、男体山、日光白根山、上州武尊山、白馬岳、五龍岳、鹿島槍ヶ岳、薬師岳、黒部五郎岳、水晶岳、鷲羽岳、槍ヶ岳、奥穂高岳、常念岳、笠ヶ岳、焼岳、赤岳、両神山、甲武信岳、金峰山、瑞牆山、富士山、空木岳、恵那山、甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、鳳凰山、北岳、間ノ岳、塩見岳、悪沢岳、赤石岳、聖岳、光岳、富士山、白山、荒島岳、大峰山、石槌山、祖母山、宮之浦岳等々、交通路終点からの最短一般向コース。 上記同等の各地山岳コース</p> | <p>1:10</p> |
| <p>登 山 上級者</p> | <p>登山ガイド ステージIII</p> | <p>北海道 ペテガリ山縦走、札内川八ノ沢～カムイエクウチカウシ、大雪山～トムラウシ山縦走、知床（羅臼岳～硫黄山縦走） 東 北 飯豊連峰縦走、朝日連峰縦走 越 後 越後三山（魚沼三山）縦走、荒沢岳、鳥甲山、 群 馬 妙義山各ルート（丁須の頭、表妙義稜線は除く） 北 ア 劔岳別山尾根、不帰岳キレット、北穂高岳～奥穂高岳、南岳～大キレット～北穂高岳、奥穂高岳～前穂高岳、黒部川赤木沢 南 ア 甲斐駒黒戸尾根、策ヶ岳、大無間山 関 東 奥秩父・東沢釜の沢、奥多摩の沢、丹沢の沢（滝を直登しない登山要素の少ない沢） 上記同等レベルの各地山岳コース、谷、沢のコース（上信越、南北アルプス、越後、大台ヶ原、台高の谷、沢は溪中1泊を限度とするが、溪相が穏やかな東北、北海道の谷は、泊数にこだわらない）</p> | <p>1:5</p> |

| | | | |
|--------------|----------------------|--|--|
| | | 岩稜コースを歩くためのトレーニングとしての岩登り講習1ピッチ以内の実施 | |
| 登山コース 上級者 | 参考例 山岳ガイド 職能範囲 | 1日の行動時間は8～12時間程度。 群馬 妙義山丁須の頭、表妙義稜線 北信 戸隠山（蟻の戸渡り）～一不動等 北ア 劔岳長次郎雪渓、北方稜線 西穂高岳～ジャンダルム～奥穂高岳、 下の廊下、上の廊下 槍ヶ岳北鎌尾根、前穂高岳北尾根 北穂高岳東稜 南ア 鋸岳～甲斐駒ヶ岳 上記同等の各地山岳コース | |

※上記の各コースおよびガイド対顧客人数比率は、当然ながら、顧客・参加者の経験、体力、体調によって変化するものである。また、各種の自然条件、交通事情等々、不可避な状況によっても変化するものである。ガイドは、事前に顧客・契約相手者等々に変化・変更の用件を伝え、十分な理解をもらうよう努力しなければならない。特に、ツアー登山参加者等に多い、体力が十分でない、あるいは集団の中で体力差がある場合には重要である。

2、積雪期・残雪期・新雪期

（新雪期：10月～11月、積雪期：11月上旬～3月下旬、残雪期：4月上旬～5月下旬
但し、地域により異なる。）

| 形態・対象 | 職能 | 概略、山名、ルート等 | 人数比率 |
|---------------------------------|--------------------------------------|--|--------|
| 自然観察 ハイキング 初心者 初級者 | 自然ガイド ステージⅡ 登山ガイド ステージⅡ | 雪崩の危険箇所が無く、安心して歩くことができる里地・里山の自然観察路、遊歩道、林道、整備されたクロスカントリー・スノーシューのコース等々。 主に自然観察を目的とする楽しみとしての歩行。 スノーキャンプ体験等も含む。 里地・里山の他は、知床自然センター周辺地形（フラベの滝等）、白神十二湖、日光・戦場ヶ原、各地スキー場隣接地形で、夏の遊歩道、自然観察路に沿う地形。 | 1 : 15 |
| ハイキング 登山 初級者 中級者 | 登山ガイド ステージⅡ | 雪崩の危険が少ない山地、高原で、道路、林道、ハイキング道に沿った自然地形。クロスカントリースキー、スノーシュー、軽アイゼン等を利用するガイドイングを含む。 中の湯～上高地、美ヶ原、霧ヶ峰、北八ヶ岳麦草峠乗鞍高原～位ヶ原周辺、榎の森～榎池自然園、入笠 | 1 : 15 |

| | | | |
|-----------|-------------------------|--|------|
| | | 山、高峰高原周辺地形等々。 | |
| 登山 中級者 | 登山ガイド ステージ II・III | 無積雪期の登山道に沿ったルート。森林限界を越えない範囲の山地。 東北 蔵王山、安達太良山、西吾妻山、森吉山 雲取山、大菩薩嶺、北八ヶ岳高見石小屋、黒百合ヒュッテ周辺、縞枯山荘周辺、4月5日立山室堂平周辺、八方尾根八方池周辺、開田高原周辺、奥美濃大日岳等々。 | 1:10 |
| 登山 中級者 | 登山ガイド ステージIII | 無積雪期の登山道に沿った森林限界を越えた積雪期ルート。易しい積雪期の専用ルートも含む。営業する山小屋より日帰り可能なエリアとする。ただし登攀等、氷雪技術を求められる地形のルート、雪崩の危険が極めて高い谷などを経由するエリア、雪稜のクライミングルートは業務範囲外となる。 ※顧客人数比は、顧客の状態、山のコンディション、自身の技術レベルに応じ、的確に判断することが望ましい。 東北 秋田駒ヶ岳、白神岳など 北八ヶ岳・天狗岳、硫黄岳、蓼科山 谷川岳天神尾根、 西黒尾根（4月以降） 奥秩父 金峰山、甲武信岳 南アルプス・仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳（北沢峠から）、鳳凰三山、 南アルプスの深南部の積雪期、残雪期のルート 中央アルプス 木曾駒ヶ岳（4月下旬以降） 北アルプス・西穂高岳独標まで 4月下旬以降 燕岳合戦尾根、蝶ヶ岳、唐松岳、立山雄山、奥大日岳（室堂からの往復）、乗鞍岳、 四国・中国・九州 石鎚山・成就より、氷ノ山、大山 | 1:5 |